



SFP 対応 SNMP 監視機能付きメディアコンバータ

2024.4.1(6.0 版)

DN5520Eシリーズ (Rev. B 以降)

取扱説明書

ご使用前に必ずお読み下さい。

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

安全にご使用いただくために(使用上の一般的注意事項)

指定用途以外には使わないで下さい！

光変換やスイッチングHUB以外の用途にはお使いにならないで下さい。
また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい！

取付けてあるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい！

誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

異常が起きたら直ちに使用中止！

使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

本製品のご使用にあたって！

本製品は、人命に関わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組み込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。

従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意願います。

大電株式会社



警告

- ・指定の電圧以外で使用しないで下さい。
指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
- ・AC電源プラグはACコンセントに確実に差込んで下さい。
電源プラグの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
- ・端子台の接続は通電する前に行ってください。
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・電源の接続は相応の訓練を受けた人が行って下さい。
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・アース線を必ず接続して下さい。
アースを接続しないと感電の原因となります。
- ・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・静電気注意！
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行ってください。



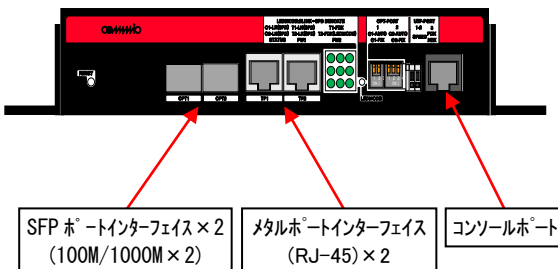
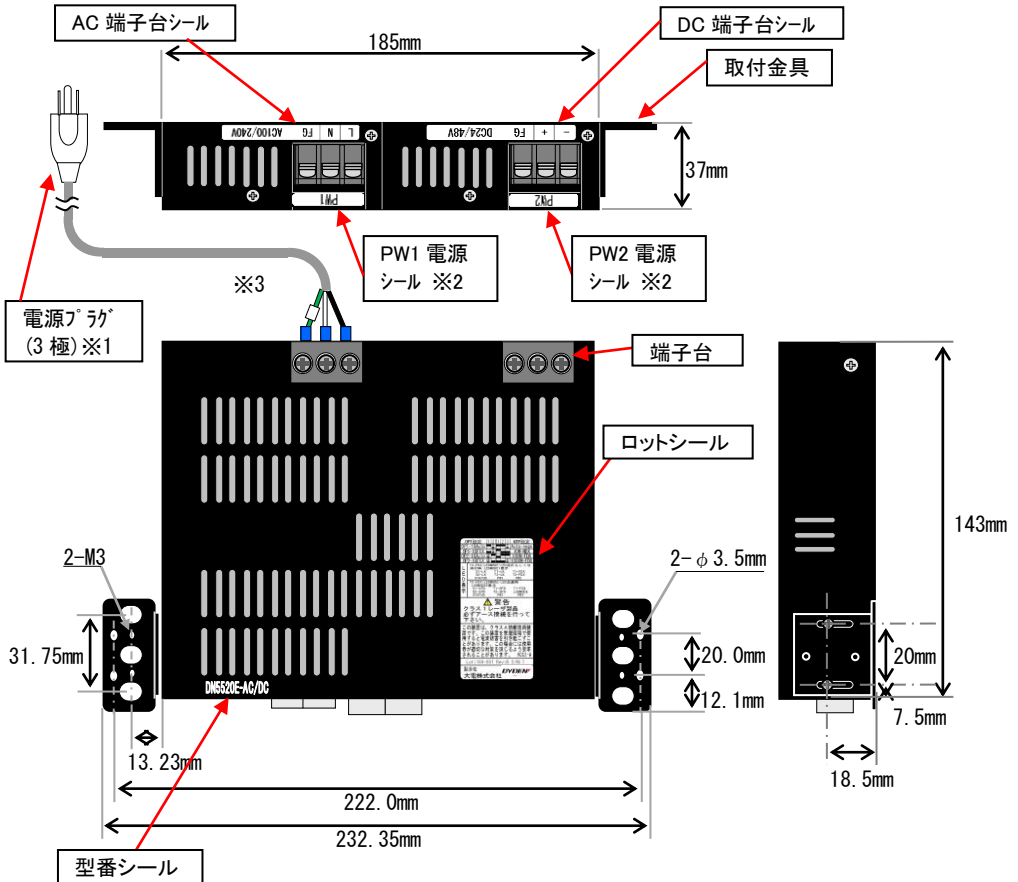
注意

- ・電源プラグを抜くときは、電源プラグを持って抜いて下さい。
電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
- ・濡れた手で製品に触れないで下さい。
故障や感電の原因となることがあります。
- ・アース線の接続及び取外しをする場合は、AC電源は電源プラグをコンセントから抜き、DC電源は電源コネクタを取外して下さい。
電源を接続したままアース線の接続や取外しをすると感電や故障の原因となることがあります。
- ・本機をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。
ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
- ・本機を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。
内部の温度が上がると火災や故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。
内部に触れ感電やけが、故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットを塞がないで下さい。
スリットを塞ぐと内部に熱がこもって故障の原因となります。
- ・本装置をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。
火災や故障の原因となることがあります。
- ・本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。
落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
- ・本装置に組込む SFP モジュールはクラス1レーザ製品です。
クラス1レーザは合理的に予知可能な運転条件で安全であるレーザです。

1. 装置各部の説明／付属品

本 体

・DN5520E-AC/DC

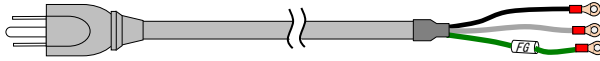


- ※1: AC入力タイプのみ。
- ※2: DN5520E-AC/-DCはPW1のみ実装しPW2はブランクパネルを取付けています。
- ※3: 入力電源の仕様により背面の状態が異なります。

付 属 品

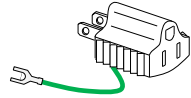
(ACコード)・・・AC版には電源プラグ付きコードが取付けられています。

AC125V 定格品です。AC200V などで使用する場合には使用電圧に適合したケーブルを別途ご用意下さい。

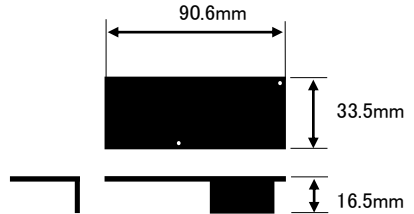


(変換プラグ)・・・AC 入力仕様時に-AC 品は 1 個/-AC/DC 品は 1 個/-AC II 品は 2 個付属しています。

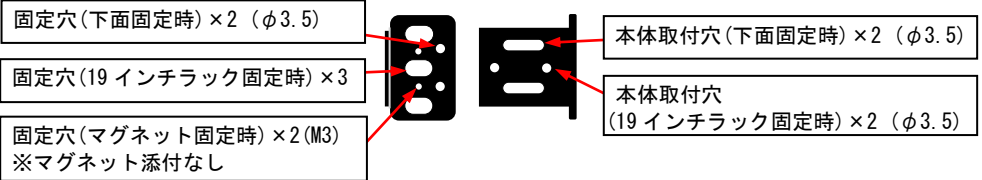
出荷時に電源プラグに装着されています。



(ブランクパネル)・・・DN5520E-AC/DC /
-AC II /-DC II 版に
1 個付属しています。
DN5520E-AC /-DC 版は
PW2 に取付けています。



(取付金具)・・・2 個付属しています。



各 種 ス イ ッ チ 、 表 示 L E D お よ び 電 源 コ ネ ク タ

・端子台

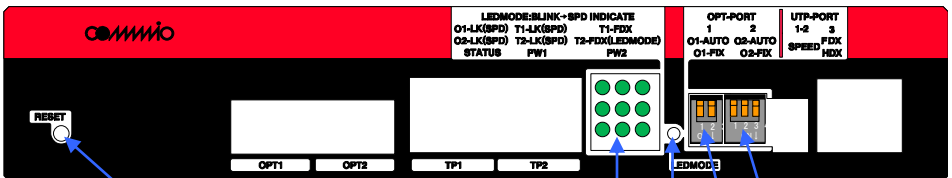
結線ビス:M4

ピン配置:



端子番号	DC	AC
1	FG	FG
2	+	N
3	-	L

・DN5520E



リセットスイッチ

表示 LED

表示 LEDMODE
切替スイッチ

UTP PORT スイッチ

OPT PORT スイッチ

・リセットスイッチ

本製品を再起動するためのスイッチです。

先の細い棒などでリセットスイッチを押すと、本製品はハードウェア的にリセットされま
す。

・表示LEDMODE 切替スイッチ

本製品の LED 表示状態を変更するためのスイッチです。

スイッチを押す毎に LED 表示状態が MODE1⇔MODE2 が切り替わります。

・OPT PORT スイッチ

本製品の OPT1 および OPT2 ポートの動作を変更するためのスイッチです。

SW1(OPT1 ポート用) 押上時:Autonegotiation 動作/押下時:1000M 全二重固定動作

SW2(OPT2 ポート用) 押上時:Autonegotiation 動作/押下時:1000M 全二重固定動作

各ポート個別に設定可能です。

※当社 100M 品 SFP を使用した場合は設定に関わらず 100M 全二重固定動作になり
ます。強制的に 100M 全二重固定設定にしたい場合はコンソールにて設定して下
さい。

・UTP PORT スイッチ

本製品の UTP1 および UTP2 ポートの動作を変更するためのスイッチです。

SW1&2(速度設定用) SW1 押上&SW2 押上時:Autonegotiation 動作

SW1 押下&SW2 押下時:1000M 固定動作

SW1 押下&SW2 押上時:100M 固定動作

SW1 押上&SW2 押下時:10M 固定動作

SW3 押上時:UTP ポート全二重動作/押下時:半二重動作

2 ポート一括設定となります。

※各ポート個別に設定したい場合はコンソールにて設定して下さい。

・表示LED

LED	表示内容
PW1~2	電源供給時に点灯(緑)
STATUS	リセット中またはFlashROM書き込み時に点灯/SW-HUBモード動作時に点滅(緑)
O1~2 LK(SPD)	LEDMODE1)光OPT1~2ポート:リンク確立時に点灯 /SD検出時に低速点滅(緑)/データ送受信時に点滅(緑) ※1 MODE2)光OPT1~2ポート:1000M動作時に点灯/100M動作時に点滅(緑)
T1~2 LK(SPD)	LEDMODE1)UTP1~2ポート:リンク確立時に点灯 / SD検出時に低速点滅(緑)/データ送受信時に点滅(緑) ※1 LEDMODE2)UTP1~2ポート:1000M動作時に点灯 /100M動作時に点滅/10M動作時に消灯(緑)
T1-FDX	UTP1ポート 全二重でリンク確立時に点灯(緑)/半二重でリンク確立時に消灯UTP1~8ポート
T2-FDX (LED MODE)	点灯もしくは消灯時)LEDMODE1表示 UTP2ポート FDX表示 全二重でリンク確立時に点灯(緑)/半二重でリンク確立時に消灯 O1~2LK(SPD)およびT1~2LK(SPD)はLEDMODE1で動作 点滅時)LEDMODE2表示 O1~2LK(SPD)およびT1~2LK(SPD)はLEDMODE2で動作

※1: OPT ポートは常時 SD 検出可能ですが、UTP ポートは LPT 有効時または Autonegotiation、1000M 固定設定時のみ SD 検出可能となります。

別 売 品

下記部材については、添付していませんので別にご準備下さい。

・ツイストペアケーブル:

10/100M動作時)

TIA/EIA-568-A に適合するカテゴリ5以上のUTPケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結線したものを
ご使用下さい。

※モジュラーコネクタはストレート結線、クロス結線のどちらでも使用できます。

※UTPケーブルは100m以下の長さでご使用下さい。

1000M動作時)

TIA/EIA-568-B に適合するエンハンストカテゴリ5以上のUTPケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結
線したものを
ご使用下さい。

※モジュラーコネクタはストレート結線、クロス結線のどちらでも使用できます。

※UTPケーブルは100m以下の長さでご使用下さい。

※モジュラーコネクタの結線はフル結線(8ピン全て結線)品を使用して下さい。

・RS-232C ケーブル(コンソール用):

専用の RJ-45/D-Sub9 ピン(メス)変換の RS-232C ケーブルをご使用下さい。

なお、ケーブルは Cisco 社製 SW-HUB 用のコンソールケーブルが使用可能です。

・SFP モジュール:

SFP MSA 規格に準拠した SFP モジュールをご使用下さい。なお、温度保証の点から当社 SFP を使用する
ことをお勧めします。

DMI 機能付きの SFP を使用する場合のみ実装している SFP モジュールの監視が可能です。

・端子台用ケーブル(接点出力用):

下記の電線サイズでご使用下さい。

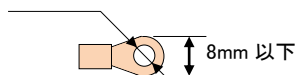
単線: $\phi 0.32\text{mm} \sim \phi 0.65\text{mm}$ (AWG28 \sim AWG22)

撚線: $0.08\text{mm}^2 \sim 0.32\text{mm}^2$ (AWG28 \sim AWG32)

・端子台用ケーブル(電源用):

AC 版で 125V を超えるものや DC 電源を使用する場合には、AWG20 \sim AWG16 ($0.5\text{mm}^2 \sim 1.25\text{mm}^2$) 相当の
電線に圧着端子を取付けて本体端子台部に取付けて下さい。(適合する電線サイズは、使用する圧着端子
の仕様に従って下さい) 本機の端子台に適合する圧着端子は下図を参照して下さい。

$\phi 4.1\text{mm}$ 以上



2. 概要

2.1 ハードウェア

本製品のハードウェア的な概要は次の通りです。

インターフェース

DN5520E シリーズ:(100BASE-FX/1000BASE-X SFP) × 2、
(10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T) × 2

入力電源二重化対応

DN5520E-AC:PW1:AC100/240V 入力/PW2:増設用

DN5520E-DC:PW2:DC24/48V 入力/PW2:増設用

DN5520E-AC/DC:PW1:AC100/240V 入力/PW2:DC24/48V 入力

DN5520E-ACⅡ:PW1:AC100/240V 入力/PW2:AC100/240V 入力

DN5520E-DCⅡ:PW1:DC24/48V 入力/PW2:DC24/48V 入力

接点出力の端子台を 1 組搭載

コンソール用の RJ-45 モジュラージャックを 1 ポート搭載

接続は専用の RJ-45/D-Sub9 ピン(メス)変換 RS-232C ケーブルを使用

2.2 サポート機能

本製品の主な機能は次の通りです。

ストア&フォワードのスイッチング方式

ポート毎に通信モードが設定可能

ログイン機能

フローコントロール機能

HOL ブロッキング機能

ポートミラーリング機能

最大 1,000 個の MAC アドレスを学習可能

MAC アドレス学習時間が設定可能(300 秒/ラーニングディセーブル設定可能)

最大パケット長が設定可能(1522/1632Bytes より選択)

SNMP エージェント機能による管理が可能(SNMPv1/v2c サポート)

RS232C や Telnet で接続しているコンソールから内蔵ソフトウェアへのアクセスが可能

FTP によるソフトウェアのダウンロードが可能

最大 3,000 件の履歴情報の取得が可能

SFP インターフェース/温度/電圧監視機能

本装置宛てパケットのマスク機能

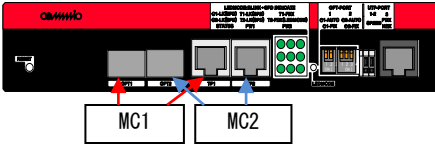
SYSLOG 機能

SNTP 機能

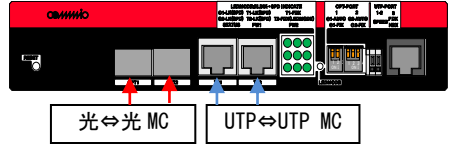
2.3 特徴

本装置は光ファイバによる 1000BASE-X および 100BASE-FX と UTP による 10/100/1000BASE-T のインターフェースを持ち、AC 入力/DC 入力に対応したメディアコンバータです。光⇄UTP 変換時はメディアコンバータ 2 台分として、光⇄光変換時はメディアコンバータ 1 台分として動作します。設定変更によって、4 ポートのスイッチングハブとしても動作可能です。

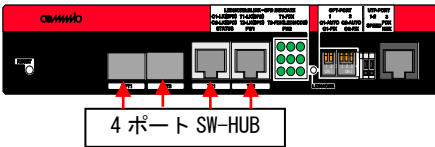
・UTP⇄光 MC モード



・光⇄光 MC モード



・SW-HUB モード



【リンク連動機能について】

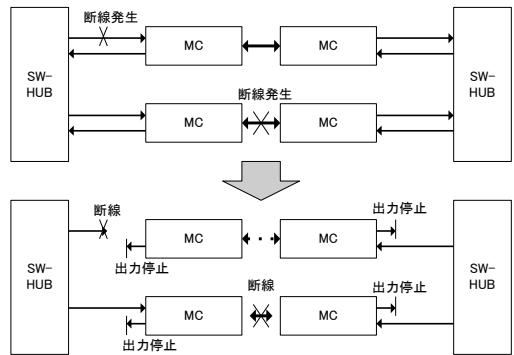
本装置にはリンク連動(以下LPT)機能があります。LPT機能とは、メディアコンバータ(以下MC)で受信のリンク断を検出した場合にMCの送信をOFFにする機能です。この機能により、MCを挟んで対向するSW-HUB間等の伝送路が切断されたときなど、両方のSW-HUBが伝送路の切断を認識できます。例えばSW-HUBのマルチポートランキング機能を伝送路のバックアップとして使う場合、この機能がないと断線時などに正常な伝送が出来ない場合があります。

また、光⇄光モードの場合は光I/F間でLPT動作します。ただし、UTP⇄UTP間ではLPT動作しません。

100M動作時、この機能は光部Autonegotiation信号を用いて実現しているため、Auto設定時にしか有効になりません。また、DN1800EシリーズおよびDN5810Eシリーズとの相互接続も可能です。リンク連動機能は3台接続以上では機能(リンクアップ)しません。
※対向機器の仕様(1000BASE-T側機器で1000BASE-T Half Duplex サポート情報を送信する製品)はリンクアップしない場合がありますので正常に動作する設定でお使い下さい。あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。

100M動作時は、DN2800Eシリーズとの相互接続も可能です。リンク連動機能は3台接続以上では機能(リンクアップ)しません。

※DN5800EシリーズおよびDN5700Eシリーズとは光断伝送信号が異なるため相互接続不可となります。UTP側を10Mで使用する場合はDN5520Eシリーズを対向で接続して下さい。



※光⇄UTP⇄光変換の為 MC を Back To Back 接続した場合、LPT は動作しません。

光間で LPT を動作させたい時は光⇄光モードを使用して下さい。

※SW-HUB モード動作時も MC モードと同様に LPT は動作します。

3. 種々の接続・取付け

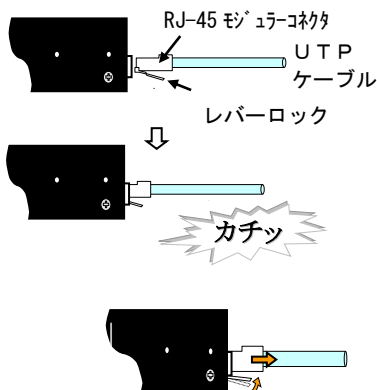
UTPケーブルの接続

- ①RJ-45 モジュラーコネクタを取付けた UTP ケーブルを、本体のメタルポート インターフェイスに接続して下さい。

※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。

※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押し当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。

ロックされた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタや本体を破損する恐れがあります。



※UTPケーブルはコンソールポートへは差込まないで下さい。

RS-232Cケーブル(コンソール用)の接続

- ①専用の RJ-45/D-Sub9 ピン(メス)変換の RS-232C ケーブルをご使用下さい。
- ②RJ-45 モジュラーコネクタ側を本体のコンソールポートに接続して下さい。
※抜差し の要領については UTP ケーブルと同様です。
※RS-232C ケーブルはメタルポートインターフェイスへは差込まないで下さい。
- ③D-Sub9 ピン側を PC 等の端末に接続して下さい。
※端末機 D-Sub9 ピン(オス)以外の場合は別途変換コネクタを用意して下さい。
※端末機については、VT100 をサポートした通信ソフトウェアが動作する PC を使用して下さい。
※通信ソフトウェアの設定については、取扱説明書(ソフトウェア)を参照下さい。

端子台用ケーブル(接点出力用)の接続

①電線の被覆を約 10mm 剥ぎ取ります。
※使用可能な電線サイズは「別売品」を参照して下さい。

②マイナスドライバーなどの工具を使って、リリースボタンを押込んだ状態にして、電線を奥まで差込みます。



③リリースボタンを離すと、電線がロックされます。
電線を軽く引っ張りロックされていることを確認して下さい。

※接点は無電圧接点です。

SFPモジュールの接続

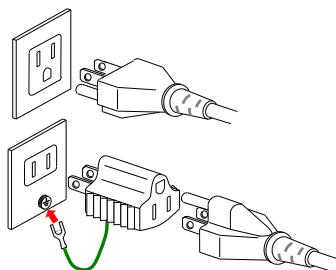
- ①SFP スロットに付いているダストカバーを外します。
- ②SFP をスロットに差し込み「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。なお、差込む際にはハンドルを上げた状態で差込んで下さい。
- ③SFP モジュールを取外すときは、まず光ケーブルを取外して下さい。
- ④SFP のハンドルを下げてもスロットへの固定を解除します。
- ⑤SFP 本体を持って引抜いて下さい。



端子台の接続

【AC100V電源の場合】

本機の電源及び FG は、AC コードに接続されていますので接地極付きコンセントに接続して下さい。接地極なしのコンセントを使用する場合は、変換プラグの口出し線を接地端子に接続して下さい。



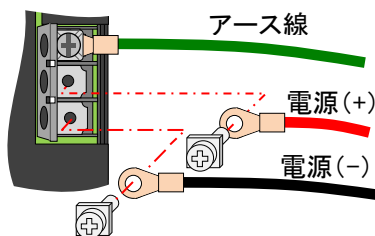
【AC200VやDC電源の場合】

- ①アース線及び電源線に圧着端子を取付けて下さい。
- ②端子台のカバーを開き、アース線及び電源線を端子台に取付けて下さい。

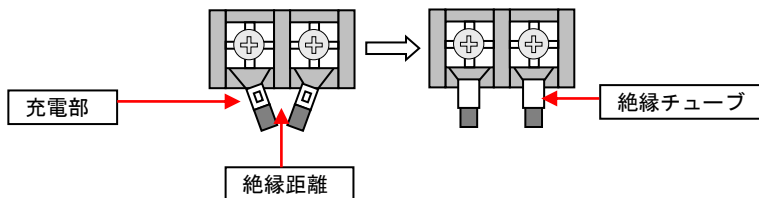
(推奨締付トルク 1.2N・m)

※極性表示シール通りに極性を間違えないように接続して下さい。

※電源線およびアース線を接続するときは、通電していないことを確認してから行って下さい。



- ③裸圧着端子を使用する場合は、充電部が露出しないように絶縁チューブ等により必要な絶縁距離を取って下さい。
※短絡等により感電や誤動作する可能性があります。

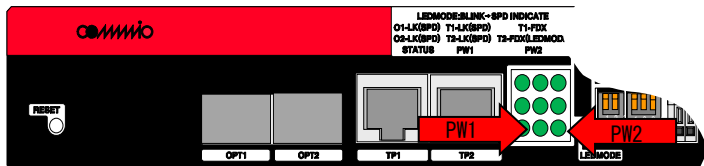


※電源を二重化してご使用の場合には、それぞれの電源ユニットについてアース接続を行って下さい。

4. 接続状態の確認

電源の確認

AC 入力仕様時は AC コードを AC コンセントに接続した状態で、DC 入力仕様時は端子台にコードを接続した状態で本体表示 LED が緑色に点灯していることを確認して下さい。電源ユニット(PW1)側が「PW1」LED に電源ユニット(PW2)側が「PW2」LED に対応しています。



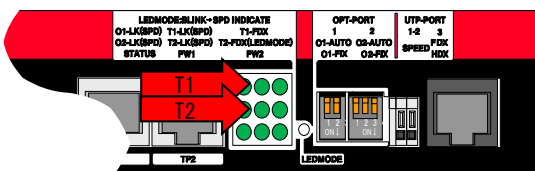
UTPケーブルの確認

UTP ケーブルを 10/100/1000BASE-T 対応の機器(パソコンやルーター、スイッチングハブ等)に接続し、本体表示 LED の TP1 ポート側は「T1-LK(SPD) LED」・TP2 ポート側は「T2-LK(SPD) LED」が点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。

※UTP を介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。

※本機器の設定および UTP を介して接続されている装置の設定状態によって LED の点灯状態は異なります。

※LEDMODE2 の場合はリンク状態を確認できませんので LEDMODE1 で確認して下さい。



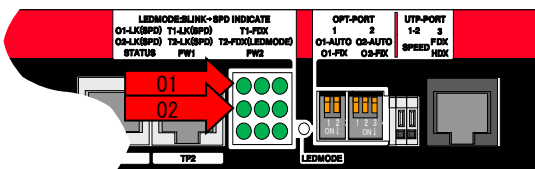
SFPモジュールの確認

SFP モジュールを差込んで光側対向機器と光ファイバを接続した状態で本体表示 LED の OPT1 ポート側は「O1-LK(SPD) LED」・OPT2 ポート側は「O2-LK(SPD) LED」が緑色に点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。

※SFP モジュールが正常に差し込まれていないと確認できません。

※光ケーブルを介して接続されている装置の電源が投入されていない時には確認できません。

※1000BASE-X 用 SFP の Port が Auto 設定時は、光対向側も同様に Autonegotiation 設定になっていないとリンクアップしません。



5. 電源ユニットの交換

電源ユニットの取外し

①交換する電源ユニットの電源をオフ(AC 電源は電源プラグをコンセントから抜き、DC 電源はブレーカを切るか電源装置から取外す)にして下さい。

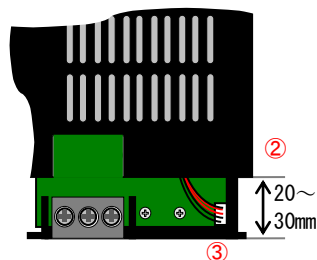
②本機背面部のネジ(2ヶ所)を取外して電源ユニットを 20～30mm 程度手前に引いて下さい。

※電源ユニットを強く引っ張らないで下さい。
引っ張りすぎると断線等の故障の原因になります



③電源ユニットのコネクタロック機構(背面向かって右側)を抑えてからコネクタを上
に引っ張るようにして取外して下さい。

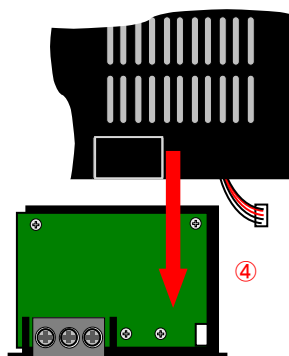
※無理に引っ張らないで下さい。
引っ張りすぎると断線等の故障の原因になります。



④電源ユニットを完全に引抜いて下さい。

⑤新たな電源ユニット取付ける場合は、「電源ユニットの取付け」を参照して下さい。

電源ユニットを取付けず、一方の電源のみで使用される場合は必ずblankパネルを取付けて下さい。



注: 交換する電源ユニット以外の基板・コネクタ等に触れないで下さい。
故障・誤動作の原因となります。

※運用中の電源部に触れない様に作業を行えばホットスワップも可能です。

電源ユニットの取付け

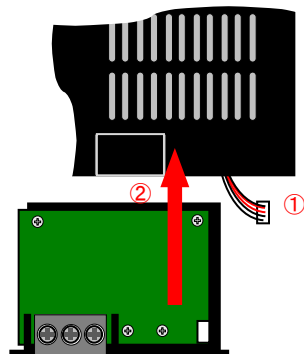
- ①本機背面から電源ユニット用コネクタを取出して下さい。

※電源コードを強く引っ張らないで下さい。
引っ張りすぎると断線等の故障の原因になります。

- ②取付ける電源ユニットを本機背面に差込んで下さい。

その時に電源コードは上板のネジ固定部の右側を通すようにして下さい。

※電源コードを左側に通した場合、取付け不良やコードを破損する可能性があります。



電源コードはネジ固定部の右側を通して下さい。

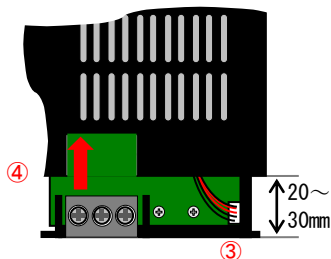
- ③電源ユニットを本機背面部から 20～30mm 程度手前まで差込んで電源コネクタをロック機構が右側になるようにして接続して下さい。

- ④電源コードに注意しながら電源ユニットを奥まで押込んで本機背面部の 2ヶ所をネジ止めして電源ユニットを固定して下さい。

- ⑤取付けた電源ユニットの電源をオンにして PW1 もしくは PW2 LED(1P 側:PW1/2P 側:PW2)が点灯するか確認して下さい。

注: 交換する電源ユニット以外の基板・コネクタ等に触れないで下さい。
故障・誤動作の原因となります。

※運用中の電源部に触れない様に作業を行えばホットスワップも可能です。



6. 設定及び設置時の注意

設定時の注意

- ①本装置はコンソール接続もしくはUTPケーブルを介してのTelnet接続によって様々な機能を CLI(Command Line Interface)で設定をすることができます。詳細は、取扱説明書(ソフトウェア)を参照して下さい。
- ②本装置のファームウェアを更新するときは完了するまで(STATUS LED 点灯中)電源断・リセット・リンクダウン等が発生しないようにして下さい。
※更新途中で作業が中断されると起動しなくなる可能性があります。
- ③本装置の設定を保存するときは完了するまで(STATUS LED 点灯中)電源断・リセット等が発生しないようにして下さい。
※保存途中で作業が中断されると起動しなくなる可能性があります。

設置時の注意

- ①本装置は、ほこりや湿気が少なく直射日光の当たらない場所に設置して下さい。
- ②本装置を設置する際に本製品の通気口を塞がないようにして下さい。
- ③本装置を横置きもしくは縦置きで使用する場合には、落下の危険がない平らな場所に設置して下さい。
- ④本装置を横置きもしくは縦置きで使用する場合には、空調が十分に効いた空間に設置して下さい。

7. 装置の取付け

設置方法

本装置の設置方法はねじ固定と 19 インチラック固定の 2 種類があります。

【ねじ固定の場合】

- ①幅広い面が固定面に接触するよう、同梱のネジで取付金具を取付けて下さい。
- ②下図に示す穴に呼び径 3 以下のネジ(添付なし)を使用し、固定面に取付けて下さい。 付属のネジを使用する

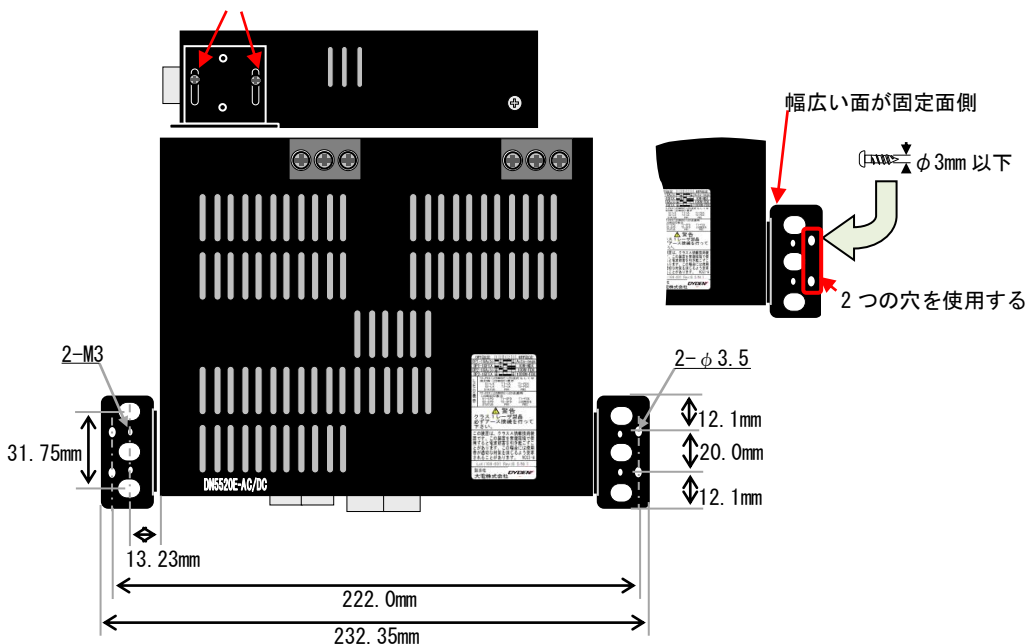


図 ネジによる固定方法

【19 インチラック固定の場合】

- ①幅広い面が全面にくるよう、同梱の皿ネジで取付金具を取付けて下さい。
- ②下図に示す穴に M5 のネジ(添付なし)を使用し、19 インチラックのレールの片側に取付けて下さい。

付属のネジを使用する

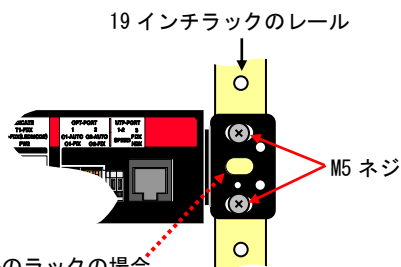


図 19 インチラックへの固定方法

* JIS 規格のラックの場合、中段のネジ穴 1 本でもご使用いただけます。

8. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

PW* LED が点灯しない

確認①: AC コードはコンセントにきちんと根元まで接続されていますか？

確認②: DC 電源のブレーカは ON になっていますか？

確認③: 電源を交換した場合は手順に沿って行いましたか？

T*-LK (SPD) が点灯しない

確認①: モジュラーコネクタは確実にロックされていますか？

確認②: 接続相手機器の電源は入っていますか？

確認③: 接続相手の機器の設定と本装置の設定はあっていますか？

確認④: UTP ケーブルが断線や異常損失を起していませんか？

代わりの UTP ケーブルで接続してみてください。

1000M 使用時はモジュラーコネクタがフル結線である事を確認下さい。

確認⑤: 低速点滅していませんか？

対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。リンクアップできる状態になっていないため UTP ポートの状態および設定、UTP ケーブルの接続状態を確認下さい。

確認⑥: LEDMODE2 になっていませんか？

LEDMODE2 は速度表示になりますので LEDMODE1 で確認下さい。

0*-LK (SPD) が点灯しない

確認①: SFP はきちんと根元まで接続されていますか？

確認②: 光コネクタの端面は汚損がなく確実にロックされていますか？

コネクタの端面を清掃し、再度抜差ししてみてください。

確認③: 光ケーブルが断線や異常損失を起していませんか？

確認④: 指定 SFP 機種以外の通信禁止機能が働いていませんか？

sfplimit -a コマンドで SFP の状態を確認してみてください。

確認⑤: 使用 SFP と機器の速度設定は同じですか？

確認⑥: 低速点滅していませんか？

対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。リンクアップできる状態になっていないため光ポートの状態および設定、光ケーブルの接続状態を確認下さい。

確認⑦: LEDMODE2 になっていませんか？

LEDMODE2 は速度表示になりますので LEDMODE1 で確認下さい。

通信ができない

確認①: ポート設定が無効になっていませんか？

portconfig -a コマンドでポートステータスを確認してみてください。

確認②: MC の組合せは間違っていないですか？

MC モード時は設定により TP1⇔OPT1/TP2⇔OPT2、TP1⇔TP2/OPT1⇔OPT2 間で通信します。

CONSOLE が接続できない

確認①: ケーブルや変換コネクタは正しく接続されていますか？

確認②: 通信ソフトウェアの設定内容は、本装置に合っていますか？

製品保証

本製品の保証内容は以下のとおりです。

保証期間：当社出荷日起算から6年間

保証内容：代替品の無償提供(先出しセンドバック方式)

- * 保証期間内であっても、次の場合は保証外となりますのでご了承ください。
 - ・取扱説明書に記載の使用方法や注意事項に反するお取り扱い及び不当な修理や改造によって生じた故障及び損傷
 - ・仕様書に記載の環境条件(温度・湿度)や使用条件、入力電圧に反するお取り扱いによる故障及び損傷
 - ・ご購入後の輸送、移動中の落下等、お取り扱いが不適当なために生じた故障及び損傷
 - ・火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変による故障及び損傷
- * 代替品の受付は 9:00～17:00 となります(土・日・祝日および当社休日を除く)。
製品在庫や受付時間によっては当日出荷できない場合があります。
- * 保証期間については、製品に貼付しているロットシールのロットナンバー・シリアルナンバーにて判別可能であるため、保証書の添付はございません。

Lot: ○○△-□□□ ○○: 製造年(西暦年下 2 桁表示)
 △: 製造月(ただし、10 月:X,11 月:Y,12 月:Z)
 □□□: 製造番号(3 桁表示)
Rev.: ◇ ◇: リビジョン(アルファベット 1 文字表示)
S/N: × × × × × ×: シリアルナンバー(最大 3 桁表示)

例) Lot: 22Z-001 Rev.: A S/N: 50 ⇒ 2022 年 12 月製造、製造番号 001 リビジョン A シリアルナンバー 50

お問い合わせ

製品に関するお問い合わせや代替品の受付は下記連絡先にお問い合わせください。
製品故障の場合、「こんな時は」に従ってご確認いただき、なお異常の場合には異常内容をご連絡ください。

『営業窓口』 大電株式会社 ネットワーク機器部 各営業所

コールセンター(テクニカルサポート窓口) ☎ : 0120-588-545 (携帯にも対応)
受付: 8:30～12:00/13:00～17:00
(土・日・祝日および当社休日を除く)
e-mail: dyden-network@dyden.co.jp
受付: 24 時間

- 東 京: 〒113-0033 東京都文京区本郷 2-3-9 ツインビュー御茶ノ水3階
TEL: 03-5684-2100 【代表】 * 担当地区: 北海道・東北・関東・甲信越地区
- 名 古 屋: 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 1-15-20 ie 丸の内ビルディング4階
TEL: 052-211-1888 【代表】 * 担当地区: 東海地区
- 大 阪: 〒541-0041 大阪市中央区北浜 4-7-28 住友ビルディング2号館1階
TEL: 06-6229-3535 【代表】 * 担当地区: 関西・北陸・中国・四国地区
- 九 州: 〒849-0124 佐賀県三養基郡上峰町堤 2100-19
TEL: 0952-52-8546 【代表】 * 担当地区: 九州・沖縄地区